

<b>事業名</b>		洞爺湖有珠山ジオパーク資源を活用した観光地づくり事業 ～奇跡の湖「洞爺湖」のある唯一無二の観光地の創造～				所管部課係名 経済環境部農務課農政係		
<b>I. 施策区分</b>								
<b>戦略1</b>		健康産業の創造						
健康に寄与する産業の活性化				市民の健康増進に貢献する産業の活性化				
①	地域産品・地域資源を活用した伊達ブランド産品の販路拡大	①	ポイントカードを活用した健康増進と経済循環	②	地域産品のPR・プロモーションによる地場産業の活性化	②	民間事業所等による伊達市民向け健康増進プログラムの展開	
●	②	③	伊達市観光物産館等での観光戦略の推進	③	市民の伊達野菜の認知度向上	④	民間企業による商品の開発支援	
	③		伊達市観光物産館等での観光戦略の推進		④	ひとり親、退職高齢者等の一次産業就業支援		
	④		民間企業による商品の開発支援		⑤	大滝区における体験型観光の取組		
	⑤		健康関連事業の起業支援		⑥	健康関連事業の起業支援		
<b>総合戦略の重要業績 評価指標 (KPI)</b>		モニターツアー開催回数：2019年度 (H31年度) 5回 農業研修参加者数：2019年度 (H31年度) 3人						
<b>戦略2</b> 定住促進のための環境整備								
雇用環境の向上と子育てにやさしいまちの実現				多様な人・世代の転入促進 (UJI Xターン支援)				
①	若年者・女性の雇用環境の改善	①	ひとり親、若年者等の就労・自立支援	②	若年女性の定住支援	②	就労相談窓口におけるサポート	
②	若年女性の定住支援	③	遊びを通じた子育て環境の整備	<b>伊達を誇りに思うひとづくり</b>				
③	遊びを通じた子育て環境の整備	①	伊達市に住むことを誇りに思う意識の醸成	②	芸術・文化の小さな拠点づくり			
④	放課後児童クラブを活用した教育活動の実施	①	伊達市に住むことを誇りに思う意識の醸成	②	芸術・文化の小さな拠点づくり			
<b>移住希望者への情報提供</b>								
①	空き家情報の一元的な提供	近隣自治体と連携した定住環境の整備						
		① 近隣他市町との広域連携事業の推進						
<b>戦略3</b> 生涯現役社会の実現								
時代に合った地域づくり、安全・安心な暮らしの実現				住み慣れた地域で自分らしく生活できるまちの実現				
①	地域包括ケアシステムの構築	①	高齢者が気軽に集える場の創設	②	健康づくり・介護予防・認知症予防事業の推進	②	市民クラブ活動支援センター等によるコミュニティ活動の支援	
②	健康づくり・介護予防・認知症予防事業の推進	③	民間事業所による生涯現役社会実現に向けた取組の支援					
<b>II. 事業内容</b>								
<b>事業概要</b>								
<p>火山の恵みを受けた良質土壌と恵まれた気象条件で生産する伊達野菜は近年、人気を集めており「多種多品目野菜」や「冬野菜・春の早出し野菜」を、これまで以上に積極的に流通・消費を促進させるため、PRに必要なツールを持つとともに、現代の社会情勢を踏まえると健康志向に関心がある高齢者世代に分かりやすく受け入れてもらえるような情報発信の手法が必要である。</p> <p>また、スマートフォンやインターネットが普及する昨今、SNS等による情報入手・交換の主な手段となっている若年世代や子育て世代にも広く野菜の機能性や健康を意識させるようなPRも実施していくことにより、明日の伊達野菜のファンを増加させ、将来に渡る産地形成、更にはブランド化には欠かせないことから、伊達市の農産物の知名度向上・ブランド化、販路開拓等を行うとともに、次世代の生産者を発掘する取組などを総合的に支援することで、ジオパーク内での食の魅力の向上や一次産業の振興を図る事業である。</p>								
<b>新継区分</b>		<input checked="" type="checkbox"/> 新規	<input checked="" type="checkbox"/> 補助	<b>事業期間</b>	開始 平成 28 年度	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> 団体への補助	
		<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 単独	<b>終了</b>	平成 年度	団体名 (北海道伊達市の農業パワーアップ推進協議会) 構成員 (市、JA(伊達市、とうや湖)、普及センター、観光物産公社、商工会議所、観光協会)		
<b>決算状況</b>		予算額	40,400 千円	決算額	34,416 千円	うち	34,416 千円	
		財源	国・道 34,416 千円	地方債	0 千円	その他	0 千円	
		内訳	●会場費(札幌プロモーション活動、フェア関係) 190,848円					
			●広告宣伝費 287,180円					
			●制作費(パンフレット、フードファイル作製等) 1,245,152円					
			●委託料 29,513,099円					
			●旅費、事務費等 3,179,743円					
<b>実施した内容</b>								
<p>(1) 農産物の知名度アップ・ブランド化のためのプロモーション活動</p> <p>●札幌プロモーション活動(伊達野菜直売会、伊達野菜フェア) ●新たなPRツール製作</p> <p>(2) 販路拡大や新規取引先の開拓に関する活動</p> <p>●ノベルティーの製作 ●国内及び海外販路開拓調査</p> <p>(3) 農産物の売上増・商品力強化に関する活動</p> <p>●ロゴマーク、キャッチコピー、ガイドブック、動画の製作 ●Webサイトの立ち上げ</p> <p>(4) 農業後継者の確保・育成に関する活動</p> <p>●新規就農者確保のための取組(新・農業人フェアへの参加、農業専門学校への受け入れ誘致活動)</p> <p>(5) その他、農産物の販売及びPR等に関する活動</p>								

<b>III-1. 所管課の評価結果 (全体評価)</b>			
必要性	対応性	事業の結果が対象者(団体等)のニーズを満たしているか	○
	適切性	事業の目的自体が地方創生にとって適切なものであるか	○
	効率性	事業の目的を達成するにあたって、最小の費用(あるいは適切な費用)で事業が賄われているか	○
	有効性	生み出された効果が基本的方向や人口ビジョンに照らして効果が期待できるものか	○
	公平性	事業効果の受益や費用の負担が社会における多様な集団の間に公平に分配されているか	△
※評価基準		○ 妥当である △ 概ね妥当である × 妥当ではない	
事業効果		伊達野菜の知名度向上のため、新たなPRツールの製作とともに札幌圏をはじめとした販路開拓の取り組みを行ったことで、伊達野菜の魅力を多方面へ情報発信することができた。また、就農希望者の相談件数も多く寄せられ、地域農業の魅力を発信するとともに、就農後の安定した経営計画を立てられるような体制を確立することができた。	
今後の改善点		伊達野菜の知名度向上と新たな販路先として主に札幌圏及び首都圏をターゲットに活動を行ったところ、野菜の品質や冬期間でも野菜が出荷できる点などいずれも好評価をいただいた一方、仕入れ価格や輸送コストがかかることで利益が見込めないとの意見があり、コスト面の課題があげられる。	
将来的な自立の見通し		人口減少が避けられない中でも都市圏ではほぼ横ばいで推移する見込みであることから、そうした地域での野菜の需要はこれまでどおり必要であり、販路先として貴重な地域であると認識している。また、離農者も増加していく状況であり、新規就農者の獲得も引き続き必要であることから、継続した取組が必要である。	
その他		本事業の継続により、現在の出荷先との継続取引をはじめ、新たな販路を創出して信頼を獲得し高価格での取引を目指すことで、就農者の所得の安定が図られるとともに、新規就農希望者を誘致するうえで他地域と比較しても有利であると考えられる。	

<b>III-2. 所管課の評価結果 (KPIの達成状況)</b>			
実施計画の重要業績評価 (KPI)	市観光物産館入込客数(H26年度)125万人:(H28年度)130万人→140万人 農業研修参加者数:(H28年度)3人→2人(施設野菜1人、果実的野菜1人)	評価結果	△
※評価基準		○ 達成済み △ 達成する見込み × 達成する見込みはない	
<p>朝どりの伊達野菜を購入することができる市観光物産館の入込客数や売上額は、年々増加傾向にあり、知名度向上に大いに貢献している。</p> <p>また、当市の温暖な気象条件を活かして、道内の他産地からの出荷時期前に多種多品目の野菜を出荷することができ差別化を図ることができる。</p> <p>なお、新規就農希望者の相談件数も多く寄せられているほか、実際に当市を訪れ、地元農業者の協力をいただき短期間の農業体験研修を行うなど新規就農者を獲得するためのサイクルが構築されてきたところである。</p> <p>今後も引き続き、地場産業のさらなる活性化と新規就農者獲得のため日々活動していきたい。</p>			

<b>IV. 事業結果を踏まえた企画課評価結果</b>			
実施状況	計画した事業が実施されているか	○ 問題なく実施している △ 社会経済情勢等の変化に伴う見直しが必要 ○ 目標達成が期待できる △ 今後の推移を見守る必要がある × 目標達成が困難である	評価結果 ○ ○ △
重要業績評価指標 (KPI) の達成見通し	現時点におけるKPIの達成状況 取り組み後の効果の状況	○ 期待した効果が上がっている △ 部分的に効果が上がっている × まだ効果が見られない	
<b>事業の今後について</b>		追加等更に発展させる ★ 事業の継続	事業内容の見直し(改善) 事業の中止 予定通り事業終了
<b>総合戦略の見直しの必要性</b>		見直し必要	★ 見直し不要

伊達市観光物産館の入込客数や売上が示すとおり、伊達野菜の知名度は高まってきており、地方創生に相当程度の効果が生まれている。

今後も、知名度アップの取組をはじめ、雪の少ない温暖な気候を生かした効率的な生産体制の確立や新規就農者の発掘を粘り強く行うことが、地場産業の活性化に向けて重要であり継続して取り組む必要がある。